

《 日独シーボルト・シンポジウム 2011 》

日独交流 150 周年記念

テーマ： 『シーボルトの知的遺産と日独ソリダリティー』

期日及び

プログラム：2011 年 10 月 18 日（火） 『シーボルトをめぐる人々ー東と西』

2011 年 10 月 19 日（水） 『アレキサンダー・フォン・シーボルト（長男）
没後 100 年記念ーその生涯と日本近代化への貢献』

2011 年 10 月 20 日（木） 『日独交流の 150 年と日独ソリダリティー』
(いずれも 13 : 00ー18 : 00)

「日本近代化の立役者」シーボルトは 150 年前、二度目の来日を果たし、長崎、横浜、江戸に滞在しています。国禁の地図を入手して国外追放になった有名なシーボルト事件から 30 年、弟子たちは幕府の奥医師や各藩の御殿医になっていました。やがて彼は幕府の顧問となります。東禅寺英国公使館襲撃事件の処理では、「情報開示の原則」を教え、また、当時の「為替レートの不均衡」などを緻密に指摘しています。

シンポジウムではこれらの「今日に生きる手法や活動の全体像」が再評価されます。

シーボルトはこの来日に、12 才半の長男を同伴していますが、彼は 15 才から英国公使館の通訳として薩英戦争、諸外国との条約締結等、幕末激動の時代に活躍します。その後、明治政府に 40 年間仕え、ウィーン万博参加、赤十字社の設立、憲法調査、不平等条約改正、諸外国新聞の情報操作等、日本近代化の基礎造りに貢献しました。この知られざるアレキサンダー・フォン・シーボルト没後 100 年にあたり、その業績を解明し顕彰します。

日本を取巻く「インフォメーション」と「コミュニケーション」が必須な問題としてクローズアップされている現在、父子二代にわたる「情報家」としての活動の実態が新しい視角から明らかにされることは意味あることでしょう。

シンポジウムの主たる目的のひとつは、日独交流 150 年を振り返るとともに、多分野のエキスパートの参加をえて、開かれたシンポジウムとし、「シーボルトの知的遺産」を現代に生かす提言をひろく集め、具体化の道を開くことにあります。

会場： OAG ハウス・ドイツ文化会館（港区赤坂 7-5-56）

主催： 日独シーボルト・シンポジウム実行委員会

共催： 東京ドイツ文化センター、（社）OAG ドイツ東洋文化研究協会
DAAD ドイツ学術交流会（財）東洋文庫、ルール大学ポッフム、ウエルツブルグ・シーボルト博物館、ブランデンシュタイン城シーボルト博物館
フラウンホーファー研究所、洋学史学会

協力： 多摩美術大学美術館、日独協会

後援： ドイツ連邦共和国大使館

日独シーボルト・シンポジウム2011 プログラム： 第1日 (10月18日) 第1部

『シーボルトをめぐる人々ー東と西』

13:00-13:30 挨拶 OAG ドイツ東洋文化研究協会 理事長 カーリン・山口
ドイツ大使 フォルカー・スタンツェル

13:30-14:00 『シーボルトをめぐる人々ー東と西』
石山禎一 元東海大学講師・シーボルト研究者

14:00-14:50 『シーボルトの弟子たちの外国語博士論文』
レギーナ・マティアス ボッフム大学教授
石山禎一 元東海大学講師・シーボルト研究者
宮崎克則 西南学院大学教授

14:50-15:10 『絵師慶賀とシーボルトーボッフム大学所蔵資料から』
野藤 妙 九州大学大学院博士課程

15:10-15:40 『失われたシーボルト資料ーボッフム大学資料と
東洋文庫フォトスタット資料の比較』
ー新しいシーボルト研究の方向性ー
大井 剛 東京成徳大学教授

15:40-16:00 休憩

16:00-18:00 ラウンド・テーブル・ディスカッション

『シーボルト研究の新しいネットワークの組織化』

参加者全員

パネラー：

W.クラインラングナー

ヴェルツブルグ・シーボルト協会理事

片桐一男 青山学院大学名誉教授

宮坂正英 長崎純心大学教授

小林宏道 多摩美術大学美術館学芸員

司会 レギーナ・マティアス (ボッフム大学教授)

日独シーボルト・シンポジウム 2011 プログラム： 第2日 (10月19日) 第2部

『アレキサンダー・フォン・シーボルト（長男）－その生涯と日本近代化への貢献』－
没後100周年顕彰シンポジウム－
司会：沓澤宣堅

13：00－13：20 『日独の学術協力』

ホルガー・フィンケン ドイツ学術交流会東京事務所長

13：20－14：00 『アレキサンダー・フォン・シーボルト－生涯と日本近代化への貢献』

C.フォン・ブランデンシュタイン・ツェペリン
ウエルツブルク・シーボルト協会会長
ドイツ・マルタ財団総裁（シーボルト後裔）

14：00－14：30 『お雇い外国人アレキサンダー・フォン・シーボルト』

沓澤宣賢 東海大学教授

14：30－15：00 休 憩

15：00－15：40 『米国の絵入り新聞に見られるシーボルト情報』

小林淳一 江戸東京博物館副館長

15：40－16：10 『日露戦争とアレキサンダー・フォン・シーボルト』

松村正義 帝京大学教授

16：10－18：00 ラウンド・テーブル・ディスカッション

『アレキサンダー・フォン・シーボルトとその時代』

司会：沓澤宣堅

日独シーボルト・シンポジウム 2011 プログラム：第3日（10月20日）第3部

『日独交流150年と日独ソリダリティー』

総括 ルプレヒト・フォンドラン

- 13：00－13：10 挨拶：クラウス・シュミット ドイツ大使館
- 13：10－13：40 『自然科学者としてのシーボルト』
大沢眞澄 洋学史学会会長
- 13：40－14：20 『医学者としてのシーボルト』
ウォルフガング・ミヒェル 九州大学名誉教授
- 14：20－14：50 『フローラ・ヤポニカ及びファウナ・ヤポニカ出版の意義』
元熊本大学教授 山口隆男
- 14：40－15：00 休 憩
- 15：00－15：30 『ドイツの知的遺産と文化活動』
K.・D. レーマン ドイツ文化センター総裁
- 15：30－16：00 『そして、全ての流れは躍動する』
－日独交流の150年1861-2011－
ルプレヒト・フォンドラン
独日協会連合会会長、日独産業協力推進委員会委員長
- 16：00－18：00 日独ラウンドテーブル・ディスカッション
－日独ソリダリティーへの提言－（パネラー交渉中）
司会：橋本 孝 日本グリム協会会長
日独協会連合会副会長
- パネラー：交渉中
- | | |
|-----------|-----------------------------|
| 医療産業 | 交渉中 |
| 自然科学 | ブンダリッヒ・ビルフリド（准教授 東海大学） |
| 再生可能エネルギー | 交渉中 |
| テクノロジー | ロレンツ・グランラート（フラウンフォーファー研究所） |
| 住宅・都市計画 | 池畑 伸（HABITA まちづくり株式会社代表取締役） |
| 中小企業 | 中上 崇 日本開発工学会会長 |
| マネージメント | |
| 総括： | ルプレヒト・フォンドラン |
- 18：00－20：00 レセプション 於 ロビー